

## 岡山県医師会副会長就任にあたっての所信

大原利憲

平成 25 年に岡山県医師会理事選挙に立候補し当選させていただきましたが、当時県医師会は混乱しており、理事会も非難の応酬でまともな議論が出来ない状態だと聞いております。自分自身は社会保障部員の一人として関係していたぐらいで詳しい内情はわかりませんが、なんとしても立ち直させなければならない、このまま現状が継続されるのは岡山県の恥ではないかという考えで、理事に立候補させていただきました。現在は副会長をさせていただいています。現在は全体的に議論ができる環境になっていますし、すべての分野で専門家がいるわけではありませんが、ある程度レポーターが整理され医師会として継続した事業ができていると思っています。

世界的には地球温暖化のため集中豪雨などの自然災害や新型コロナウイルスなどの感染症、ウクライナに始まる石油価格上昇などの経済問題などが勃発して、世界はさらなる不透明な格差社会が進行しています。そのような中で県医師会も柔軟に対応していかなければならないと認識しています。医師会の役目については広く国民の生命と権利を守る事につきると思っていますが、勤務医出身の副会長の役目として医療政策や連携などについて力をそそぎ、現在会員になっておられない病院勤務の先生方の意見も結集していかないと改革は出来ないものと思っています。そのためには日本の医療福祉政策を担っていくためのリーダーとしての自覚を持ちながら医師会の運営をしていかなければならないのではないのでしょうか。現在の医療制度、保険点数の格差のために国民に不利益になっている部分などもわかりやすく広報して国民を味方につけるとともに、現場で働かされている先生方に理解していただけるための努力も重要であると思っています。解決にはなかなかハードルが高いのですが、さらなる 2 年間皆様方の力を結集していただきより良い結果が出せるようがんばりますのでよろしく願いいたします。